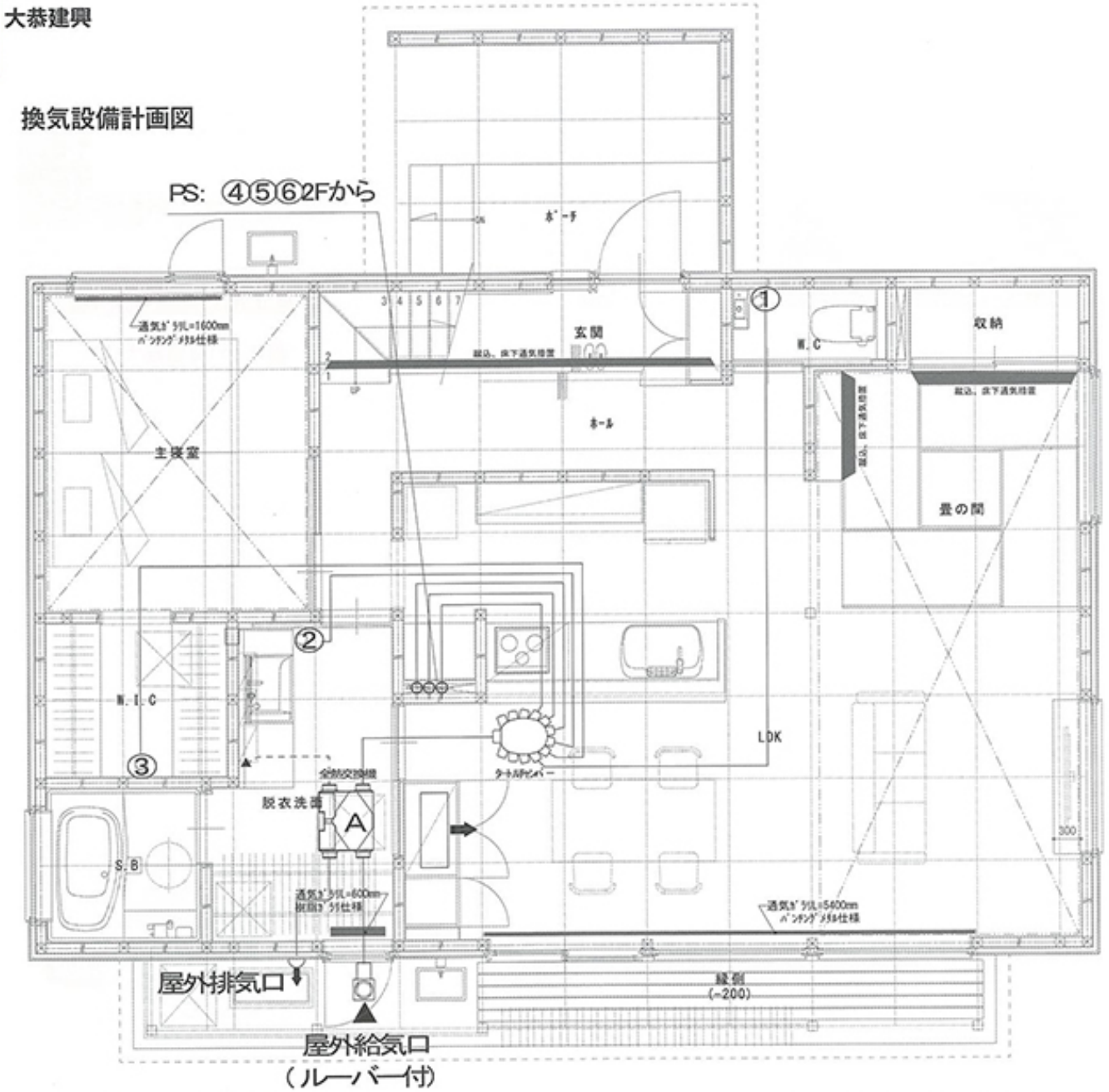
換気設備計画図



豪雪地では雪で埋まらないように屋根付きのテラスに給・排気口を設ける工夫も

く、自分たちでもオーナー宅で調査させてもらって問題ないことを実証している」とする。

同換気システムの導入に際して小幡さんは、「床下の給気の吹き出し口を、なるべく床下エアコンの近くに来るように計画する」という。床下エアコンから吹き出す風と、換気の給気の方向をできるだけそろえて、ぶつからないようにしている。加えて、基礎内の立ち上がりをできるだけ減らして、空気のよどみをつくらないようにする工夫も効果的だ。また、各居室の床面に排気口を設けるため、「家具との取り合いなどで干渉しないような場所にするように配慮する」。2階から床下への排気ダクトについては、収納のなかの壁をふかして、その奥に通すといった工夫をしている。

換気の排気口をエアコンの室外機の近くに設けると排気の熱で近辺の雪を溶かす効果を期待できる

積雪地ならではの工夫

床下換気システムの場合、積雪地ならではの配慮も必要だ。降雪によって給気口や排気口が埋まってしまう可能性があるため、特に豪雪地帯などではメーカー供給による積雪地用のキットを用いるほか、例えば屋根付きの外部テラスに給気口・排気口を持ってくるといった対策を施す。そのほかに小幡さんは、積雪地ならではの工夫として、「その逆というわけでもないが、熱交換されているとはいえ冬場の外気よりは暖かい空気が常に排気口から排出されることになるので、エアコンの室外機の近くに排気口を持ってきてあげると、室外機近辺の雪が溶ける効果が見込めるので、豪雪地では焼け石に水だが、そうでなければある程度有効」と説明する。

住まい手が自分で清掃

オーナーにとってのsumikaのメリットとして小幡さんは、メンテナンスのしやすさを挙げる。床下点検口を開けると、熱交換器のふたがマグネット式で、だれでも簡単に取り外せるようになっているため、オーナーが熱交換素子を自ら簡単に清掃することができるという。オーナー自らという点で同社では、冬場の過乾燥対策などについて「住む人が、高性能な住宅を住みこなすような感覚で取り組んでほしい」との思いも込め、湿度管理の手法をアドバイス。「洗濯物の室内干しをすすめているほか、入浴後に浴室の換気扇を回さず、脱衣場のドアを開け放しにしたうえで、脱衣場から浴室に向かってサーキュレーターを回して浴室を乾燥する方法を紹介。それでも湿度40%台前半がキープできないようであれば、その時は加湿器などを利用するようにすすめている」という。

住まい手が自らマグネット式のふたを簡単に取り外して熱交換素子の掃除をすることができる